

# 情報数学 I

## 第 11 回「経路」

### § 5.1.2 経路

**経路 (walk)**: グラフ  $G$  の頂点と辺が交互に現れる有限な列  $W = P_0 e_1 P_1 e_2 P_2 \cdots e_n P_n$  を **経路** または **歩道** という。

- $P_0$  を **始点**、 $P_n$  を **終点** といい、 $W$  を  $P_0$ - $P_n$  **経路** という。
- 辺数  $n$  を経路  $W$  の **長さ** といい、 $|W| = n$  または  $l(W) = n$  と書く。
- $P_0 = P_n$  のとき、 $W$  は **閉じている** という。
- 単純グラフに対しては、経路  $W$  を  $P_0 P_1 P_2 \cdots P_n$  と書く。
- 経路  $W_1 = P \cdots Q$  と経路  $W_2 = Q \cdots R$  をつなげてできる経路  $P \cdots R$  を  $W_1 W_2$  と書く。

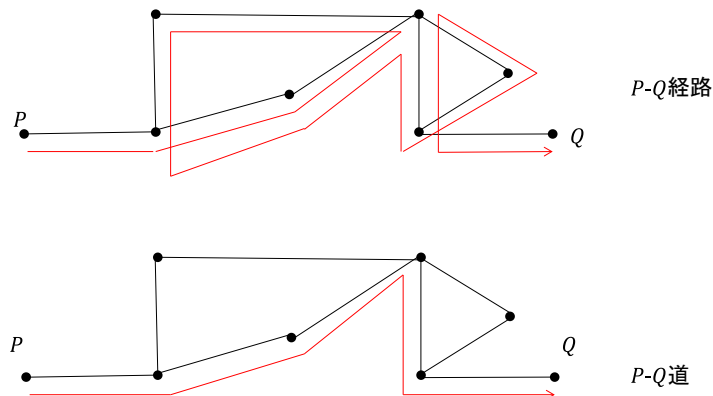
**小道 (trail)**: 同じ辺を通らない経路

**道 (path)**: 同じ頂点を通らない経路

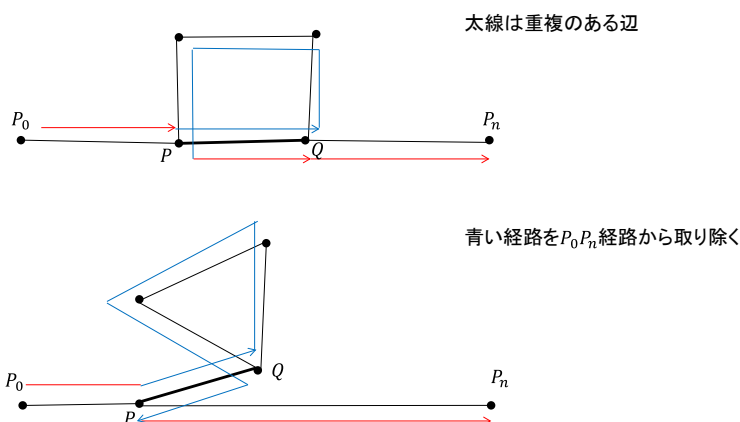
**閉路 (cycle)**: 閉じている道を **閉路** または **サイクル** という。長さ  $n$  の閉路を  $n$ -**閉路** という。

(注) 経路を道という場合もあり、その場合、小道は単純道と呼ばれ、上記の道は基本道と呼ばれる。

(定理) どんな  $P$ - $Q$  経路も  $P$ - $Q$  小道を含み、どんな  $P$ - $Q$  小道も  $P$ - $Q$  道を含んでいる。



証明の概略： 小道でない場合。重複のある辺をPQとする。次の図のように順方向に重複する場合と逆方向に重複する場合の二通りがある。



それぞれの場合において青い経路を除去すればPQの重複を除去できる。グラフのサイズは有限なのでこれを繰り返すことですべての重複辺を除去できる。したがって、どんな経路も小道を含む。

次に、道でない小道なら、重複して通る頂点が存在し、それに接続する閉路が存在する。小道からこの閉路を削除することでこの重複を除去できる。グラフのサイズは有限なのでこれを繰り返すことですべての重複頂点を除去できる。したがって、どんな小道も道を含む。

(定理) 全ての頂点の次数が2以上である有限グラフは必ず閉路を含む。

証明の概略： 教 p. 141 参照。

### ○隣接行列と経路の数

隣接行列Aに対し、

$$A^n = \underbrace{AA \cdots A}_{n\text{個}}$$

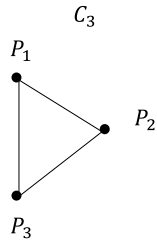
とし、 $A^n$ の $(i, j)$ 成分を $a_{ij}^{(n)}$ と書く。

(定理) グラフ $G = (\{P_1, \dots, P_p\}, E)$ とし、その隣接行列をAとする。 $A^n$ の $(i, j)$ 成分 $a_{ij}^{(n)}$ はGにおける長さnの相異なる $P_iP_j$ 経路の個数である。

単純グラフについては次の性質が成り立つ。

- (1)  $a_{ii}^{(2)} = d(P_i)$
- (2)  $\frac{1}{6} \sum_{i=1}^p a_{ii}^{(3)}$ はGにおける相異なる3辺形の個数である。
- (3)  $p \geq 2$ のとき、Gが連結(Gのどの2頂点間にも経路がある) $\Leftrightarrow \sum_{n=0}^{p-1} A^n$ のどの成分も正。

(例)



$$A = \begin{bmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{bmatrix}, A^2 = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 1 & 1 & 2 \end{bmatrix}, A^3 = \begin{bmatrix} 2 & 3 & 3 \\ 3 & 2 & 3 \\ 3 & 3 & 2 \end{bmatrix}$$

### ○距離

**距離  $d(P, Q)$** :  $P$ - $Q$ 経路の長さの最小値のことを頂点 $P$ と $Q$ の間の距離といい、 $d(P, Q)$ と書く。

任意の $P, Q, R \in V$ に対し次が成り立つ。

- (i)  $d(P, Q) \geq 0$
- (ii)  $d(P, Q) = 0 \Leftrightarrow P = Q$
- (iii)  $d(P, Q) = d(Q, P)$
- (iv)  $d(P, Q) + d(Q, R) \geq d(P, R)$  (三角不等式)

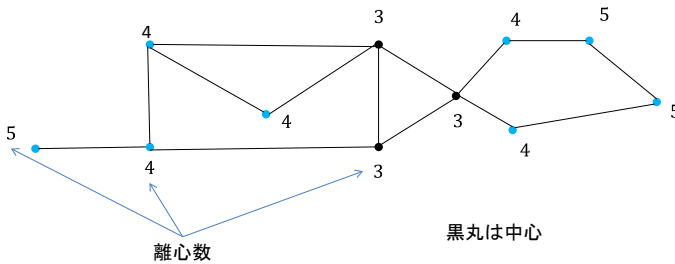
**離心数  $e(P)$** :  $P \in V$ に対し、 $P$ からもっとも遠い頂点までの距離を離心数という。 $e(P) = \max\{d(P, Q) | Q \in V\}$

**直径  $diam(G)$** : グラフ $G$ のすべての頂点の離心数のうちの最大値を $G$ の直径という。 $diam(G) = \max\{e(P) | P \in V\}$

**半径  $rad(G)$** : グラフ $G$ のすべての頂点の離心数のうちの最小値を $G$ の半径という。 $rad(G) = \min\{e(P) | P \in V\}$

**中心**:  $e(P) = rad(G)$ である頂点 $P$ を $G$ の中心という。中心は一つとは限らない。

(例)



黒丸は中心

$$rad(G) = 3, diam(G) = 5$$